



平成28年 4月11日

各 位

上場会社名 株式会社ダイヤモンドダイニング
代表者 代表取締役社長 松村 厚久
(コード番号：3073 東証第一部)
問合せ先 取締役 管理本部長 樋口 康弘
電話番号 03-6858-6080 (代表)

平成28年 2 月期通期連結業績予想の修正および個別業績の見込みに関するお知らせ

当社は、平成28年 1 月13日に公表いたしました平成28年 2 月期通期の連結業績予想を下記の通り修正いたしますのでお知らせいたします。
また、平成28年 2 月期通期の個別業績の見込みについて、あわせてお知らせいたします。

記

1. 平成28年 2 月期 通期連結業績予想の修正 (平成27年 3 月1日～平成28年 2 月29日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	30,000	900	850	0	67.28
今回修正予想 (B)	29,820	952	889	△ 262	△ 36.62
増減額 (B - A)	△ 179	52	39	△ 262	
増減率 (%)	△0.6	5.9	4.7	—	
(ご参考) 前期通期実績 (平成27年 2 月期通期)	26,079	964	956	385	54.36

(注1) 平成27年 3 月 1 日を効力発生日として、普通株式 1 株を 3 株に分割しておりますが、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1 株当たり当期純利益を算定しております。

(1) 修正の理由について

当社グループは、当連結会計年度におきましては、過去最大となる年間43店舗の積極的な新規出店の実施に加え、既存店売上高前年対比101.2% (飲食事業：99.9%、アミューズメント事業：104.8%) と堅調に推移しました結果、連結売上高は通期業績予想を若干下回りましたものの、過去最高となる29,820百万円となる見込みであります。

利益面におきましては、昨年12月の年末商戦が順調に推移したこと等により、連結営業利益、連結経常利益はともに前回予想を上回る見込みとなりました。一方、当期純利益につきましては、当連結第 4 四半期において固定資産の減損損失他を特別損失に追加計上することに加え、繰延税金資産の回収可能性の見直しによる法人税等調整額を299百万円計上することにより、前回予想を下回る見込みでございます。

なお、上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

(2) 特別損失の計上について

当連結第 4 四半期において、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づく減損損失65百万円を含む特別損失101百万円を追加計上する見込みとなりました。

(3) 繰延税金資産について

当連結会計年度の業績見通し等を踏まえ、繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討した結果、繰延税金資産の取崩しを行い、299百万円を法人税等調整額に計上する見込みであります。

2. 平成28年2月期 通期個別業績の見込みについて（平成27年3月1日～平成28年2月29日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績（A）	13,841	166	346	155	21.90
当期実績見込み（B）	14,538	△ 104	38	△ 1,063	△ 148.66
増減額（B－A）	696	△ 270	△ 307	△ 1,219	
増減率（％）	5.0	—	△88.9	—	

（注）平成27年3月1日を効力発生日として、普通株式1株を3株に分割しておりますが、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

（1）個別業績の見込みについて

当社は、当事業年度におきまして、「わらやき屋」ブランドの他計14店舗の新規出店の実施に加え、既存店売上が堅調に推移しました結果、売上高は前期実績に対し増収となる見込みであります。

一方、利益面におきましては、大型店舗等の新規出店によるイニシャル費用や減価償却費の増加及び持株会社機能としての本社費用増加等により、営業利益、経常利益ともに前期実績値を下回る見込みとなりました。また、当期純利益につきましても、当第4四半期において米国子会社の株式評価減他を特別損失に追加計上することに加え、繰延税金資産の回収可能性の見直しによる法人税等調整額を284百万円計上することにより、前回実績値を下回る見込みでございます。

なお、上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、今後様々な要因によって見込み数値と異なる場合があります。

（2）特別損失の計上について

当第4四半期において、当社が保有する子会社株式のうち、連結子会社でありますDiamond Dining International Corporation（米国）の株式について、「金融商品に関する会計基準」に基づき、子会社株式評価損387百万円を含む特別損失443百万円を追加計上する見込みとなりました。

なお、子会社株式評価損につきましては、連結決算上相殺消去されます。

（3）繰延税金資産について

当事業年度の業績見通し等を踏まえ、繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討した結果、繰延税金資産の取崩しを行い、284百万円を法人税等調整額に計上する見込みであります。

3. 配当予想について

平成28年2月期期末配当予想につきましては、平成28年2月期第3四半期決算発表時（平成28年1月13日）に公表した1株あたり12円から変更はありません。

4. 今後の重点施策について

当社及び当社グループは、2011年3月発生の東日本大震災以降、東京エリアにおける地域集中リスクを分散する一環として、関西エリアへの積極出店、福岡への新規出店、そしてM&Aを通じた海外進出・海外展開を積極的かつスピード感を持って取り組んでまいりましたが、今般、誠に遺憾ながら、海外事業におきましては、平成28年2月期個別業績において多額の海外子会社株式評価損を計上するに至りました。

この事態を真摯に受け止め、今後の海外を中心とした新規投資に関しては、当社の積極姿勢は強みとして尊重しつつ、適正利益を確保するために必要な情報の収集、論理構築、知見の蓄積をより精度高く実施し、これら一貫した仕組みを再度当社及び当社グループに構築・浸透させ、新規投資の成功確度を向上させることにより、将来における特別損失計上の最小化を図ってまいります所存でございます。